

第6回 NPO法人会計講座

令和元年 9月

こんにちは、宮崎県生活・協働・男女参画課です。

さて、第6回は、

「仕訳」(しわけ) のパート2 に入りたいとおもいます。

前回は、貸借対照表項目のみの仕訳のケースを学習しました。

貸借対照表	
(借方)	(貸方)
資 産	負 債
	純資産

左が資産
右が負債と純資産・・・



前回は

現金 (資産の部)	500	/	備品 (資産の部)	500
-----------	-----	---	-----------	-----

 や、

買掛金 (負債の部)	700	/	現金 (資産の部)	700
------------	-----	---	-----------	-----

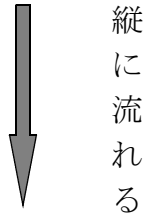
 といった、

貸借対照表の項目のみしか左右に出現しない仕訳のみで学習しましたが、
実際は、貸借対照表項目のみの取引よりも、損益計算書の項目も交えた仕訳の方が多い
です。

今回は、「売上」、「受取利息」や「仕入」、「給与手当」、「水道光熱費」などといった損益計算書項目を交えた取引についての仕訳を学習しましょう。

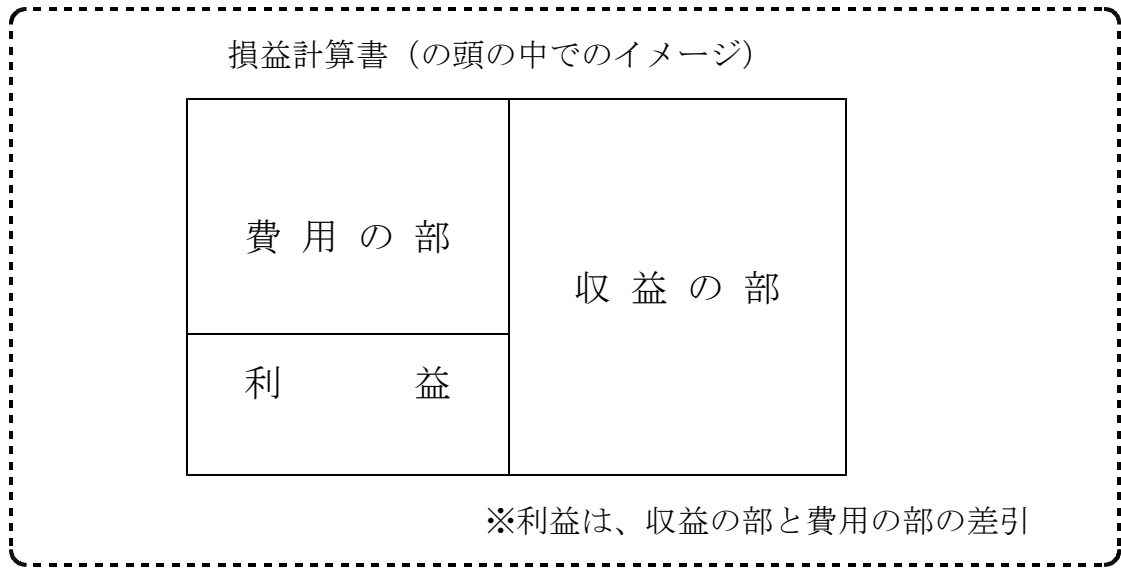
※損益計算書の書式の振り返り
損益計算書(H30.4.1~H31.3.31)

1	売上高		2,000円
2	売上原価	▲	400円
	売上総利益		1,600円
3	販管費	▲	700円
	営業利益		900円
4	営業外収益		300円
5	営業外費用	▲	200円
	経常利益		1,000円
6	特別利益		150円
7	特別損失	▲	100円
	当期純利益		1,050円



第3回で学習したとおり、損益計算書は上から下に流れていく書類でしたね。

この形状が、対外に出すときの正式なフォームなのですが、今回のように、仕訳を学習する上では、便宜的に次のフォームで認識してください。



- ・収益の部の項目は右側 (貸方)
- ・費用の部の項目は左側 (借方)

なぜ、収益が右側で、費用が左側なのか・・・？

貸借対照表では、資産（←なんかいい印象）が左で、
負債（←なんか悪い印象）が右だから・・・

貸借対照表	
(借方)	(貸方)
資 産 の 部	負 債 の 部
	純 資 産 の 部

損益計算書の収益の部（←なんかいい印象）も左なのでは・・・？
と疑問に思う方がおられるかも知れません・・・

損益計算書	
(借方)	(貸方)
費 用 の 部	収 益 の 部
利 益	

このことについては・・・ズバリ深く考えないで、機械的に覚えてください。

一応考えられる答えとしては。。

- ・そもそも「資産」と「収益」は、全く別ものである。
- ・収益と費用の差額である利益は、最終的に貸借対照表の右側の純資産の部に振替えるため、収益の部が右側でないとつじつまが合わなくなる。

↑ この部分は理解していただこうと思って書いてないです。（読み飛ばす！）

つまり、「そんなもんなんだ！」と深く考えずに覚えていただく！
それが答えです。

（そのうち、「収益は右」と頭の中で自然と定着してきます。）

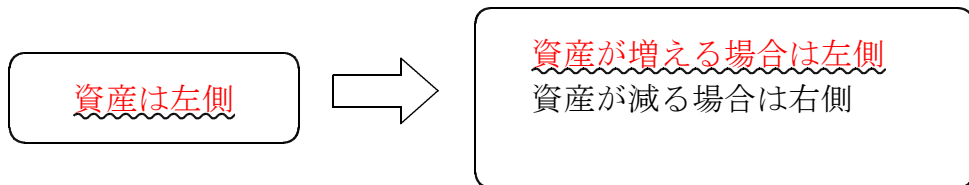
では、P 2 の図をイメージしながら、仕訳の例を見てみましょう！

例 1) 「現金で 1, 000 円売り上げた。」という取引を仕訳してみると・・・
こうなります。

現金	1, 000	／	売上	1, 000
----	--------	---	----	--------

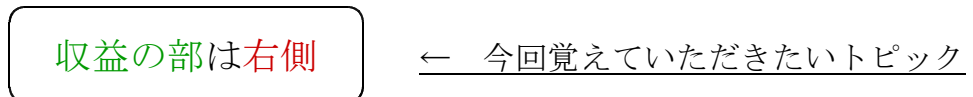
(解説)

- ・現金は、「貸借対照表項目の資産の部」で、増えるから左側に 1, 000 円



↑これは前回の復習になります。

- ・売上は「損益計算書項目の収益の部」になりますので、右側になります。



2 頁の図で、収益の部が右側であることを御確認ください。

この仕訳を、貸借対照表と損益計算書に反映すると、このようになります。

貸借対照表

(資産の部)	(負債の部)
現金 1,000	
	(純資産の部)

損益計算書

(費用の部)	(収益の部)
	売上 1,000
(利益)	

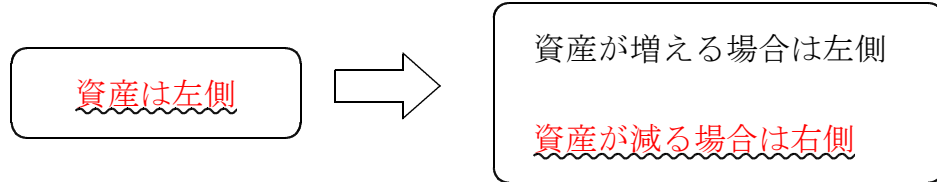
<u>現金</u> <u>1, 000</u> /	<u>売上</u> <u>1, 000</u>
↑ 貸借対照表の資産の部へ	↑ 損益計算書の収益の部へ

例2)「現金で500円仕入れた。」という取引を仕訳してみると・・・
こうなります。

仕入	500	／	現金	500
----	-----	---	----	-----

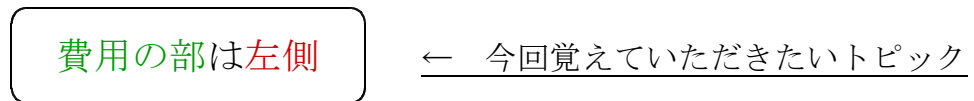
(解説)

- ・現金は、「貸借対照表項目の資産の部」で、資産が減るので右側に500円



↑これも前回の復習になります。

- ・仕入は、「損益計算書項目の費用の部」ですので、左側になります。



2頁の図で、費用の部が左側であることを御確認ください。

この仕訳を、貸借対照表と損益計算書に反映すると、このようになります。

貸借対照表		損益計算書	
<div style="border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;">(資産の部)</div> <p style="color: red; margin: 0;">現金 ▲ 500(※)</p>	<div style="border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;">(負債の部)</div> <div style="padding-top: 5px;">(純資産の部)</div>	<div style="border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;">(費用の部)</div> <p style="color: red; margin: 0;">仕入 500</p>	<div style="border-bottom: 1px solid black; padding-bottom: 5px;">(収益の部)</div> <div style="padding-top: 5px;">(利益)</div>

※資産である現金が減少する（右側）ことを、図では「▲（マイナス）」で表しています。

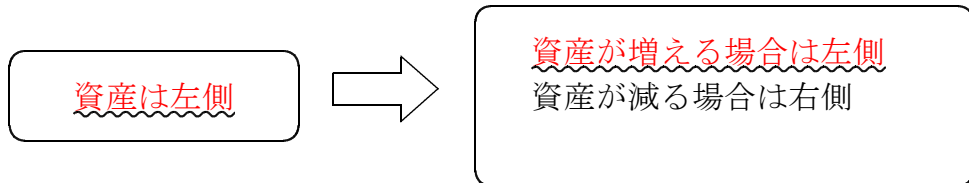
<p style="margin: 0;"><u>仕入 500</u> /</p> <p style="margin: 0;">↑ 損益計算書の費用の部へ</p>	<p style="margin: 0;"><u>現金 500</u></p> <p style="margin: 0;">↑ 貸借対照表の資産の部（の減少）へ</p>
---	--

例3)「簿価が400円の土地を600円で売却した。」という取引を仕訳してみるとこうなります。

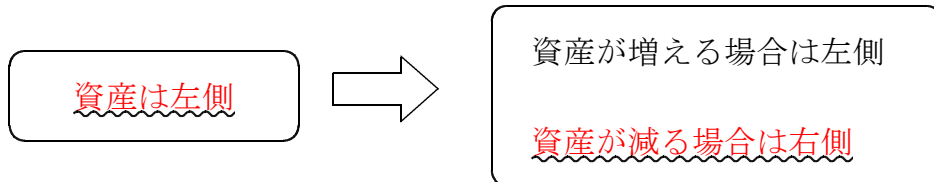
現金 600	/	土地 400
		固定資産売却益 200

(解説)

- ・現金は、「貸借対照表項目の資産の部」で、増えるから左側に600円

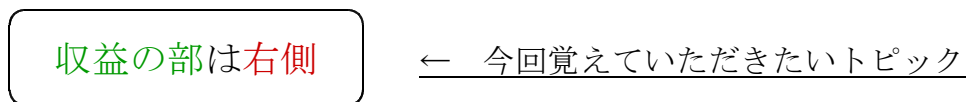


- ・土地は、「貸借対照表項目の資産の部」で、売却して減るので右側に400円



- ・「簿価」(帳簿価格) 400円の土地が600円で売れた場合、その差額は何でしょうか・・・「得した」ということになりますね・・・
 「得した」・・・という事象は、損益計算書の中の「収益の部」に属します。

土地(固定資産)を売却して、得した場合は、その得した額は「固定資産売却益」(収益の部)となります。



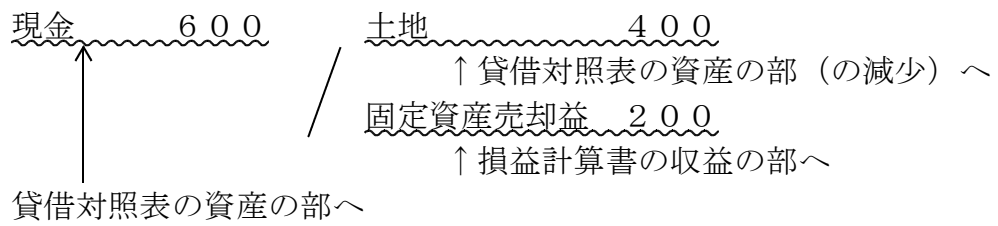
図であらわすようになります。

貸借対照表

(資産の部)	(負債の部)
現金 600	
土地 ▲ 400	
	(純資産の部)

損益計算書

(費用の部)	(収益の部)
	固定資産売却益 200
(利益)	

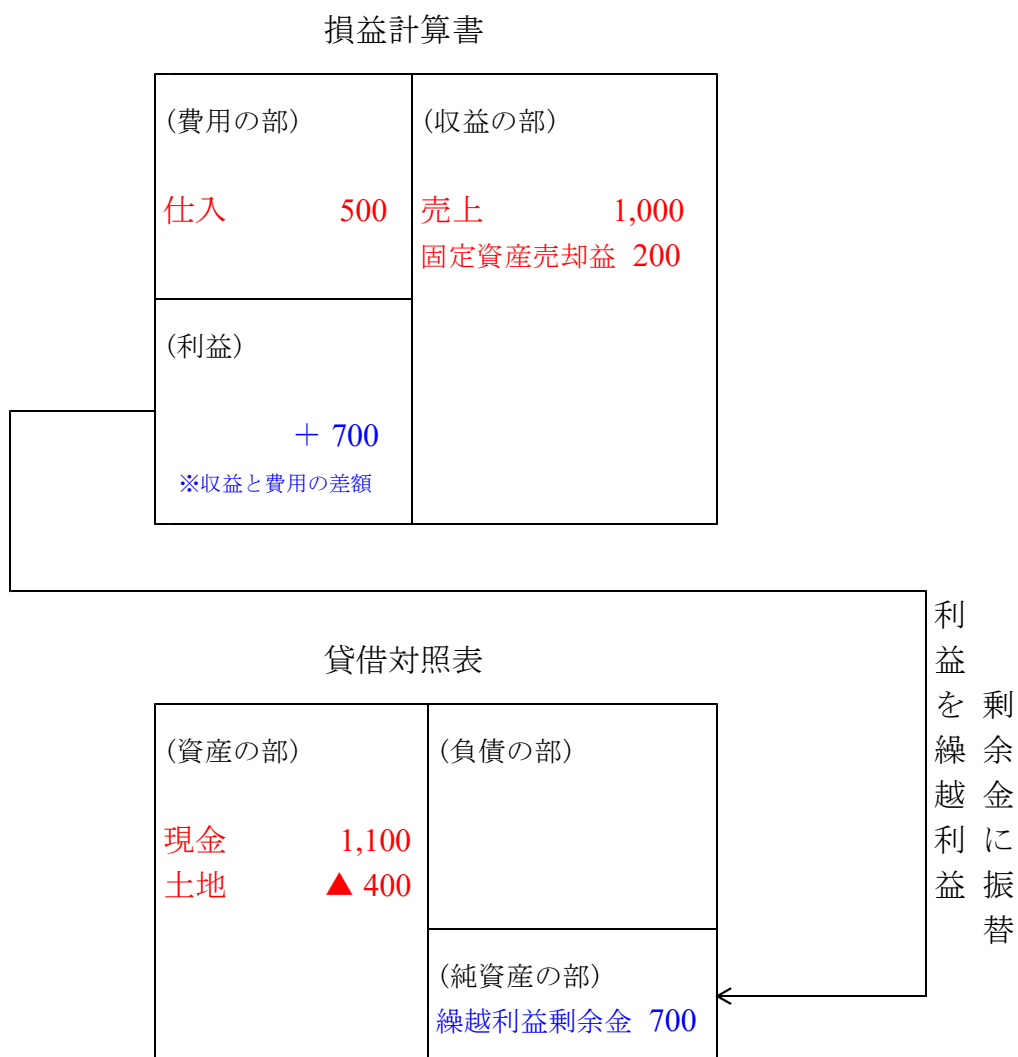


本日はここまでです。お疲れ様でした。
 次回は、ここまでのおさらいをいたします！！

※次のページに、本日の内容に関連した、
 少し掘り下げた話を掲載していますので、
 興味のある方はお読み下さい。
 (少し難しいので、読まなくてもOKです。)

(ここからはちょっと踏み込んだお話なので、興味のある方はお読み下さい。)

ちなみに例1～3の取引の貸借対照表と損益計算書を融合すると、次の赤着色の数字になります。



損益計算書で利益（青字）が発生したら、その利益は貸借対照表の純資産の部に「繰越利益剰余金」として振替えて計上します。

今日学習したように、仕訳を行うと、貸借対照表に流れていく項目と、損益計算書に流れていく項目に分別されますが、損益計算書で算出された利益（収益と損失の差額）は、繰越利益剰余金として、貸借対照表に振り替えるので、結果、貸借対照表の左右は必ず一致するのです。